

つちや まひろ

土谷 真優 議員(熊石第二中学校2年)



自然災害に対する備え

熊石地域は海や山が近く、自然災害時の避難が大変です。山への道は急な階段、木や雑草が茂る道が続き、階段がない所も多いです。避難所に行く道を整備してほしいです。

答弁)町長

熊石地域は、急傾斜の山と海に挟まれ、地震等による津波被害や地すべり、かけ崩れなどの災害が想定されます。各町内会が避難道路等を整備・管理することで、地域の防災意識の向上が図られています。町では町内会支援としてパイプなどの資材の提供をしてきました。現在、北海道では地震による日本海側で起こる津波浸水シミュレーションを行い、その結果を今年度中に公表する予定です。また、北海道による土砂災害警戒区域の基礎調査を進めており、時期がきたら説明会を開催します。これらを受け、熊石地域の災害避難計画等の見直しが必要ですので避難道路整備も含め、皆さんと一緒に検討していきます。生徒の皆さんは、普段から防災意識の向上に努め、災害時はまず自分の身を守ることを一番に行動し、次に避難が困難な高齢者等の手助けもお願いしたいと思います。自分の身を守る「自助」・お互いに助け合う「共助」・行政による救助や支援の「公助」で、熊石地域の防災力及び地域住民の防災意識の向上を一層図り、災害による被害者を出さぬよう取り組んでいきたいと考えています。

たけべ あいり

武部 愛里 議員(八雲中学校1年)



若者にも快適に過ごせる町に

少子高齢化の中、若者への対策として、自由にスポーツができ、祝日や休日は大会やイベントを行える場所があれば、高齢者も若者も快適に過ごせ地域の輪も広がるのではないのでしょうか。

答弁)教育長

八雲町での昨年の国勢調査の結果は5年前と比較し65歳以上の方が占める割合(高齢化率)が、4.5%増え、0歳~14歳までの子どもの人口(年少人口)は1.0%下がり、人数では372人も減り少子高齢化が進んでいます。八雲町では、全世代に対し色々な事業や施設の充実を図っており、図書館、温水プールや学校施設等の改築や改修、文化・スポーツ施設の整備は充実しています。現在、稼働する公共施設は老朽化が進んでおり新しい施設の計画が進んだ際は、単独建設は難しいと思いますが、自由なスペースなど考えたいと思います。スポーツは八雲地域では総合体育館、イベントなどは、大人の責任者がいれば、公民館など中高生も利用できます。色々な活動を展開し、健康づくりや文化活動に取り組み八雲町の魅力発信者として活躍してください。

再質問)武部

もし、大会やイベントなどを行えるスペースがあるなら、総合体育館ではスポーツの種類を増やすことはできますか。

答弁)体育課長

体育館では卓球、バスケットボールなど、一通りの種目ができますのでやりたい競技があればご相談ください。

みた りゅうと

三田 隆人 議員(野田生中学校2年)



高齢者とのよりよい暮らしと町づくりを

八雲町が高齢者にとって住みやすい町にするために2つ提案します。①保育所と老人ホームの融合です。小さい子どもたちは高齢者に貴重な話を聞き、幅広い年代の方と関わるきっかけになります。②小中高の児童や生徒などが高齢者と話をしたり、昔の遊びなどを教えてもらう交流です。高齢者の方は楽しめ、若者は、話を聞き知識や知恵を知ったりできます。町が企画すれば、多くの世代の人が参加し、若者と高齢者が人の大切さを感じ、助け合って生活をしていけるとと思います。

答弁)町長

高齢者と子どもの交流は、今は、少子高齢化や核家族化、近所との結びつきの低下などから機会が失われ、かつては得られたことが得られないという損失があります。これをもう一度取り戻すことは、とても大切で意義のあることです。

①近年、公共施設の整備では、施設の集約・併設する事例が増加しています。平成10年に全国1,000の自治体に行った調査では、最も多い融合施設は「保育園とデイサービスセンター」、次に「児童館と高齢者福祉センター」、「保育所と高齢者福祉センター」、「保育所と特別養護老人ホーム」という結果でした。融合施設になれば、子どもは、高齢者などへの思いやりや優しさを身につけ、高齢者は、ふれ合いの中で役割を見つけ、意欲を高め日常生活の改善や会話の促進がされます。現在、町内に融合施設はないので、世代間交流の方法として、今後、公共施設整備計画の中で検討していきたいと思います。

②現在、八雲町には32の老人クラブがあり、小・中・高校生と交流する機会は、教育委員会では「お年寄りと子どものつどい」を年間7回、他に八雲・熊石両地域では、高齢者学級と小学生が参加する「わくわく教室」、小学校に訪問して「むかし遊び(お手玉やあやとりなど)」などで交流事業をしています。高齢者の方々が、元気で孤独感なく過ごせるように、歩いて行ける距離の範囲に、地域の誰もが気軽に立ち寄れる「地域サロン」が必要と考えています。運営形態はさまざま考えられますが、高齢者も主体的に運営に参加しサロンを訪れる高齢者の孤立防止や介護予防につながります。また、高齢者の社会貢献活動の促進や生きがいづくりにつながるものと考えています。今後、「地域サロン」を作る際は、若い皆さんが参加し、昔ながらの遊びをととして交流できる機会を作ることを考えていきたいと思っています。

再質問)三田

もし保育所と老人ホームを融合することになった場合は一般の人にも伝えてもらえますか?

答弁)保健福祉課長

保育所と高齢者施設の融合については今後の検討課題になるかと思っています。融合施設ができる場合には町民の皆さんにお知らせします。